

キリスト教保育

年主題

ともにつむぎだす

希望の中で

小論

今、急増している新種の健康障害

環境過敏症とは？

北條祥子

論説

「おもしろさの主体」として

発達する乳幼児(1)

加藤繁美



Maki Tanaka

10

2023 OCT.

ヤコブは独り後に残った。そのとき、
何者かが夜明けまでヤコブと格闘した。

新共同訳聖書・創世記32：25

月主題の「とりくむ」から、ペヌエルでの格闘（創世記32:23～33参照）の物語が思い浮かびました。この話は、聖書の学問上いろいろと深い研究がなされていますが、今月の聖句をキーフレーズにして考えてみます。

1. 「何者か？」

ヤコブが格闘した相手は、「そのとき」には全く誰だかわかっていませんでした。彼は、闘って勝った後で、「どうか、あなたのお名前を教えてください」と尋ねるのですが、教えてもらえません。名前は、その人の存在を明かすことですから、ヤコブはそれが知りたかったのです。

2. 独り後に残ったヤコブ

なぜ、ヤコブは独りになりたかったのでしょうか？ 聖書の本文には、全くその気配はありません。ヤコブは非常に恐れ、思い悩んだのです。だから、彼は独りだけ残ったのです。自分の全生涯において、かつてなかったような大きな不安の中にあったに相違ありません。ヤコブは、神に助けを祈ったでしょう。暗闇の中で、独り祈らざるを得なかったのです。

3. 格闘（組み打ち）

「お前は神と人と闘って勝ったからだ」（29節）。この格闘は、神を相手にしているということと、勝ったという結果が出ています。しかし、暗闇の中の格闘は、負ければ滅びてしまうという必死の思いと、激しい恐怖が、ヤコブをして、夜明けまで闘わしめたのでしょうか。ヤコブは、このような場で、神とお会いしているのです。もし万一、神が一方向的に勝ってしまわれていたら、どうなっていたでしょうか？ それが出来たお方なのに、ヤコブに勝たせられたのです。ここに神の優しさをみるのです。

子どもたちの遊びにおいても、冒険的な、積極的なチャレンジするところがないと、その魅力や面白さが半減するでしょう。遊びが思いのままに出来るとき、子どもの仲間の「自由空間」といったものが生まれます。発達段階をかえりみず、危険さを無視することはできませんが、それでも子どもには、チャレンジする側面を強調したいのです。

兄エサウを欺き、神と争うことが、ヤコブの性格でありました。ヤコブの性格には感心できない点があるにもかかわらず、究極的には、神と真剣に取り組むところの姿勢が、好感を与え、教えられるところです。

（宗宮 進・執筆 当時・日本キリスト教団津山教会牧師 田町保育園園長）

1989年『キリスト教保育』誌10月号より

キリスト教保育

第655号10月号



年主題

ともにつむぎだす

～希望の中で～

幼子とともにキリストへ 2

目次 3

〈巻頭言〉オムライスにケチャップ、

カツレツには千切りキャベツ 木田浩一朗 4

〈論説〉「おもしろさの主体」として発達する

乳幼児(1) 加藤繁美 6

〈小論〉今、急増している新種の健康障害

「環境過敏症」とは？ 北條祥子 14

図書紹介 西村真 篠永政男 19

聖書に聞く・お話 山本香織 20

【カリキュラム】

10月 月のねがい表

心にとめて 海野美代子 23

実践報告 愛の園保育園 26

実践からの学び 金澤直子 31

心にとめて 永瀬真澄 32

実践報告 双葉幼稚園 34

実践からの学び 菅原 創 39

〈連載〉子どもの健康 黒田恵美子 40

〈連載〉キリスト教の行事 茂呂塾保育園 42

絵本のとびら 平岡奈美 45

礼拝のお話 菰田とみ子 46

子どもと賛美するために 56

目福口福耳福 緒方晴樹 57

風 石垣慶子 編集子 白井真名子 58

連盟だより 59

「愛されている」 西嶋佳弘 61

表紙絵

カット

田中慎子
中畝治子 こだいみのり
松成真理子 金井ユリ

